光が丘を探求する Ⅱ

「光連協」結成の動き

バイク暴走 路上駐車ズラリ

光が丘団地は、昭和六十年当時、まだ入居者が少なく生活そのものは極めて静かだったが、バイク騒音と無法駐車に悩まされた。この問題は『住環境の改善』以前の逼迫したものだった。

広いパークタウンではところどころに住棟の建設現場はあったものの、大部分が野原だった。しかし道路は先行建設されていたので「広野に真新しい一筋の道路」なのでバイクの格好の走路となった。とくに夜間。近郊からも暴走族が集結して、集団で走行した。居住者はその騒音を耳にしながらも手の打ちようがなく、その苦情は団地ばかりでなく、隣接町からも頻繁に起きた。そのため、警視庁や警察署はパトカーを巡回させてはいたが、いたちごっこを繰り返すばかりで一向に治まる気配はなかった。

五十九年の光が丘団地内の交通事故は九十八件。このうちバイク事故が四十九件。死亡事故も三件、『植物人間』となった重大事故も二件あり、遂に六十年五月、練馬警察署（当時光が丘警察署は未設）は光が丘中央大通り、同南通り、同東通り、日大病院通りを午後九時から翌朝五時までバイクを通行禁止とした。

一方、乗用車等の車両の違法駐車は光が丘の『名物』となっていた。当時は違法駐車に適切な対策がないので、車は団地内道路に駐車し、さらに歩道を占拠する悪質な無法駐車も現われた。

違法駐車の多発は各団地の駐車場不足にあった。都営団地は障がい者など特例を除いて駐車場はなく、公団、公社の団地でも所要台数の二分の一以下に過ぎず、駐車場割当くじで落選した車は路上に駐車するか、隣接の町に駐車場を求めるしかなかった。隣接の町の駐車場は、需要が急増したため、賃貸料が高騰し、ますます求めにくくなった。この事態を解決するために各団地では、公団等住建三者に駐車場の増設を要望した。その結果。六十年以降建設の団地では駐車台数を多くとるようになった。しかし、経済が下降し、車の保有が減少したため、この問題は六十四年ごろから沈静化した。

団地共通の問題は同一歩調で

光が丘団地の入居が始まって一年以上が経過した頃には住民の地域意識が醸成され、諸問題は自治会で要望、陳情したものの、光が丘団地内の全自治会共同で問題解決をはかったことがなかった。

ところが、人口増加により新しい問題が台頭し各単一団体では処理できない　問題が出て来た。例えば通勤通学時のバスは混雑し、旭町二丁目バス停あたりでは積み残しがでる。また最終便の時間延長も切実な願いだった。三月にはダイヤ改正があるが、これに対してまとまった住民要望がない。

そのほか警察官派出所の誘致、バイク騒音の取締り、中心商業施設へのアプローチ、駐車場の増設などが重くのしかかって来たため、住民団体がこれを研究し、共通の問題として取組む日が近づいて来た。

各団体がまとまって交渉し、解決しようと、各自治会や管理組合の役員は口ぐせのように主張するが、入居間もないため、相互間の連絡さえ不十分で、実を結ぶことがなかった。そこで光が丘新聞社が連絡調整役となり六十年十二月に初めて顔合わせを行った。

この日、集まったのは六団体の代表者たち。自己紹介のあと、最も設立の早かった公園南自治会長代行（当時）小林秀自氏が主旨説明。「光が丘の諸問題を、これまで各自治会で単独陳情、要望を行って来たが、これでは当局も困惑、また力が分散して問題解決が弱い」と主張し「今後、各団体の自主性を尊重しながら、共通する問題は、相互に協力し、同一歩調で解決に当ろう」と提案、そのため「何らかの形の連合組織を設置しよう」と呼びかけた。

これに対して出席者から賛意を示され、今回は初顔合わせということも合って、各団体の現状、今後予想される問題点など座談的に話合った。とくに新しく入居した出席者の理解を深めるため、光が丘新聞社が光が丘地区の開発現状、将来計画、自治会活動の歩みを成果、当面する諸問題を説明した。

当時の出席者は次のとおりだった。

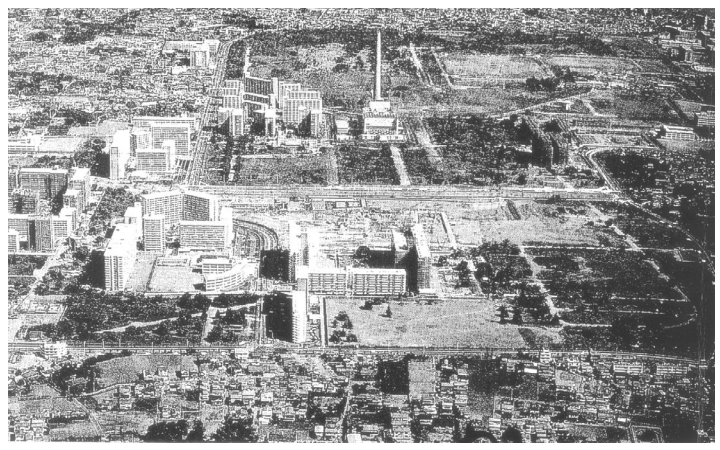
▽公園南＝小林秀自　長谷川　昭　中村嘉也▽旭町一丁目アパート＝内田繁清▽コーシャハイム＝山内正一▽シティコープ＝高橋勇士▽大通り北＝泉井重男　杉田時男　大原郁夫▽大通り南＝木下英敏　垣原　潔▽その他＝斉藤幸七（光友会）小山一男（光が丘新聞社）

団体連署で初めての要望

第二回会合は第一回に引続いてひと月後、六十一年一月に開かれ、より具体的に問題の処理に当ろうということになり、「バスのダイヤ改正」を取りあげた。さらに今回は単一団体ではなく、各団体共同歩調で関係者へ陳情、要望しようと名称も仮称ながら「光が丘住民組織連絡協議会」として「光連協」（略称）結成の第一歩を踏み出した。

五十九年四月、待望の西武バス、国際興業バスが開通したが、朝、夕のラッシュにはこれまでの便数では、乗客の積み残しが見られ、さらに三月下旬には一九〇〇戸の大量入居が見込まれるため、相当の混雑が予想される。その反面豊島園―成増と同じルートを走る光が丘―吉祥寺のダイヤには直近している時間があり、後続バスがガラ空きになるケースもある。夜十時以降の便数が少ないのも悩みのタネで増便の要望は強かった。光が丘―平和台ルートでは地下鉄平和台駅での地下鉄発着時刻と、バス発着時刻とに大きな時間差があり、乗客不在のダイヤだった。これらを解消するため①増便をはかること②同一ルートでの有効なダイヤ編成③平和台駅での適正なダイヤ編成―を西武、国際興業バス会社に要望するとともに、練馬区長に対してもこれらの要望実現の協力を陳情した。

この陳情文の署名は一応「光が丘地区住民組織連絡協議会（仮称）」となっていたが、各自治会住宅管理組合の名称を連記した。


昭和59年の光が丘団地

意見調整に苦労した準備委

この共同陳情は、「光が丘地区住民組織連絡協議会」設立への結束をより強固にし、六十年九月に準備会が発足した。準備会ではどのような性格の団体にするか、が議論された。その結果「各団体の統制的な上部団体ではなく、むしろ各単一団体が活動しやすいように情報交換を行い、多岐にわたる諸問題を解決し、政治的信条、宗教にとらわれず、あくまで住みよい、豊かな光が丘のまちづくりに努力する」というようなもの。中にはこのような『親睦、情報交換団体』では諸問題解決への住民運動は不可能だとする意見もあったが、取り入れなかった。また光が丘公園をはさんで北（むつみ台、ゆりの木北、同南団地）南の団地では問題意識が異なるので、南北同一視してもいいのか。たとえば駐車場増設を訴えている時に、北では（光が丘公園の駐車場新設）反対を訴えていた。しかし、他の諸問題で共通する点もあるので、この南北問題は問われないことになった。

一方、機能の違う二つの団体である自治会（賃貸）、管理組合（分譲）については、それぞれ活動を尊重するため、二つの部会を設置し、自治会部会は、都営、公社、公団の管理者ごとに分科会を置き、家賃や共益費、修繕問題などについて討議。管理組合部会は、かし保証、メンテナンス問題、修繕費積み立て問題などについて情報を交換する仕組みとなった。

駐車場、交通、騒音等の重要な共通的については、課題ごとに四つの専門委員を設け、研究検討し、必要があればそれぞれの関係機関へ要望・陳情することにした。これらをまとめるのか幹事会で、専門委員は各団体の構成員から選ばれることになった。このように協議会の発足によって、光が丘地区の問題点が浮きぼりにされ、それらの解決に住民がこぞって参加することになり、住民の期待は大きかった。

専門員会は次のとおり。

【交通】▽地下鉄の早期着工、工事の促進▽バスの増強と終車時刻の繰り下げ実現▽成増、下赤塚、豊島園など乗換駅付近の駐輪場設置▽団地内駐車場の増設、違法駐車の取締り

【防犯・防災】▽団地内警察署、消防署および交番の設置▽移動交番はじめパトロールの強化▽広域避難場所としての光が丘地区や災害時の対応について検討

【サービス施設】▽給湯、暖房システムの安定供給、障害時のバックアップ体制の確立▽保健所、福祉事務所など住民に密接な窓口の早期開設

【環境・美化】▽車公害の規制、根絶、公園駐車場建設問題の解決

「光連協」設立総会にこぎつける

このような案を作成して六十一年を迎え三月十五日に設立総会開催の運びとなり、総会では準備委員会の原案通り活動方針、予算案は可決され初代の役員を選出した。

総会終了後、祝賀パーティーが開かれた。祝賀パーティーには地元選出国会議員、都・区議会議員、諸官庁、周辺町会、商店会の役員など約１００名が出席。席上、総会議事の報告があって、役員を紹介。中森会長のあいさつを受けて中村代議士が祝辞を述べ、「役員の皆さんはこれからが大変。大いに頑張って下さい」と激励したほか、各界の代表もこぞってお祝の言葉を贈り、盛会のうちに幕を閉じた。

広く関係者が参加する新年祝賀会

六十二年一月光が丘で初めての新年祝賀会か開催された。これまで自治会など単独の祝賀会はあったが、光が丘全体のそれはなかった。光連協発足機会に開催したものだが、光連協イベントとしても初めての催しものだったので、発起人が主催者となり、代表に当時の中森和明（光連協会長）、小山一男（光が丘新聞社代表）両氏を選んだ。それにしても多人数を収容する会場が光が丘にはないので、東京熱供給（株）の会議室を借用した。

まず、招待者（出席者）は光連協加盟団体の役員はもちろんだが、周辺地域、光が丘に関係している人など広範囲から人選を進め、七十名が参加。この中にはその年の春オープンする西武デパート、忠実屋、ＮＨＫ文化センター、ＮＡＳの代表者、地下鉄十二号線鉄工事業者も顔を見せ、初めて光が丘の人たちの仲間入りをした。

まず、中森和明連絡協議会会長が「光が丘の発展にともない、いろいろな問題が発生すると思われるが、相互理解を深め解決に当たろう」と挨拶し、吉田公一、高橋知一両都議が木槌で開封した鱒酒を汲みあって、池田悦久光が丘第一自治会会長の音頭で乾杯した。この後、出席者一人一人が自己紹介をかねて挨拶したが、その度に歓迎の拍手が送られた。

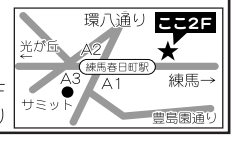
これまで自治会、管理組合の役員は、前年光連協の発足によってお互い顔見知りだったが、その他の団体役員、商工業者らとは初めてという人も多く、名刺を交換しながら懇親を深めた。

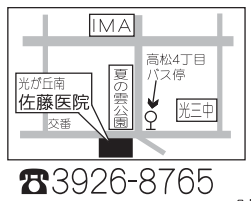
これが会員以外の人たちも参加する現在の光連協新年祝賀会の原形となっている。

※6月5日号の続き

足の爪切り
困っていませんか？
まずはご相談ください

出張します★出張費￥1100
爪ケアサロン
ココナツハウス
田柄3-1-23（都立練馬高校前）
03-6670-0668

つつじ皮膚科
婦人科クリニック
練馬区の子宮がん検診実施中
予約はホームページより
Tel 3970-7760
HP http://www.tsutsuji-h.com
練馬春日町駅
A1出口徒歩2分
春日町3-31-17
ラフィーネ春日町２F
Ⓟ4台あり


光が丘南 佐藤医院
内科 循環器科　消化器科 小児科　外科
月～水・金　8:30～12:30　15:00～19:00
土曜日　8:30～12:30
休 診　土曜午後・木曜・日曜・祝日


各種検査
健診
予防接種
☎3926-8765
（電話予約可）　院長 佐藤 博
高松4-12-17　光が丘夏の雲公園前

小児科・内科
アレルギー科
発達外来／QRコードから予約を

診療時間	月	火	水	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○
15:00～18:00	○	休	○	○	休

木・日曜・祝日休診
飯島医院
光が丘7-3-6 大通り南 TEL3976-6087